

「不正駐車の一掃で地域にさらなる“安全・安心”を」 時間貸し駐車場が果たすべき役割とは —— 日本パーキングビジネス協会 新理事長に聞く

本誌編集長
山本 稔

前川 琢也

一般社団法人日本パーキングビジネス協会 理事長
ノースパーク株式会社 代表取締役社長

【プロフィール】

前川 琢也 (まえかわ たくや)

1967年広島県呉市生まれ。愛媛大学工学部資源化学科卒業。「三井のリパーク」立ち上げに携わった後、駐車場ビジネスで起業。2021年に「北海道パーキング株式会社(現ノースパーク株式会社)」創業、社長に就任し、北海道へ移住。2016年、一般社団法人日本パーキングビジネス協会の初代北海道支部長就任。2024年5月同協会理事長就任。本ページの写真は札幌市白石区にあるノースパーク株式会社のオフィスにて撮影。窓の向こうには「札幌の母なる川」と称えられる豊平川が流れている。

縁もゆかりもなかった北海道にパーキングビジネスの商機を見出し、北海道パーキング株式会社(2021年「ノースパーク株式会社」へ社名変更)を立ち上げて、早11年。2016年には一般社団法人日本パーキングビジネス協会(JPB)初代北海道支部長を務め、彼の地のパーキング業界を牽引してきた前川琢也氏が、今年5月、JPBの理事長に就任した。都市交通政策の変化やDXの波、そして自動運転等の技術革新への対応など、山積する課題にどのように立ち向かうのか。JPB東京本部事務局で前川氏に話を聞いた。

収録：2024年7月4日

聞き手：本誌編集長 山本 稔

駐車場は付帯施設の価値をも左右する重要なインフラだ

山本 就任から少し時間は空きましたが、改めてJPB理事長としての抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

前川 私がパーキングビジネスの世界に入ってから今年で33年が経ちました。理事長という重責を担い、改めて感じるのが「駐車場は、社会において本当に重要な役割を担う存在である」ということで



2024年5月のJPB総会・懇親会で新理事長として登壇し、抱負を語る前川氏。

す。例えば、何らかの公共施設、あるいはショッピングモールなどに併設されている駐車場は、車でいらっしやっただお客様をいちばん最初に出迎え、なおかつ、いちばん最後にお見送りする場所です。お客様の視点に立てば、その施設に対する印象を大きく左右することにもつながります。

山本 確かにそのように考えると、パーキング業界の責任は重大ですね。

前川 ええ。その施設で得られる体験の印象をプラスの方向に増幅できる装置と言っても過言ではありません。例えば、ある有名人気百貨店に車で行きたいお客様がいるとします。自分が欲しい洋服が売られているブティックがある、食べたい料理を提供するレストランが入っている、などの理由でその百貨店に行きたいのだけど、オペレーションが悪く、駐車場に入るのに時間がかかってしまうと……「時間をもったいないから行くのは止めよう」と判断されても仕方ないのではないのでしょうか。我々の努力次第で、そうした残念な事態を軽減することは可能だと思います。

山本 おっしゃるとおりですね。駐車スペースのサイズ感はもちろん、入庫から出庫までの場内の動線がスムーズかどうかなどによって、お客様本来の目的地である、その施設に対する印象もかなり変わるでしょうから。

前川 もてなす場としての駐車場を想定すると、ハードの充実度もさることながら、ソフト=人のクオリティも問われます。誘導の仕方だけでなく、担当している駐車場に関する基礎情報、さらには駐車場周辺のまちのガイドなど、質を追求するほど多様な知識が求められます。私は、そうした一定の知識基準をもった人材を、JPBが主導するかたちで育てていきたいと考えています。そのような人材が勤務していれば、利便性や安全性、快適性、ホスピタリティなどが高い駐車場としてお客様にも喜んでいただけると思います。

山本 それが併設駐車場であれば、併

施設側もそのような優れた能力を持つ人に駐車場を管理してほしいと思うでしょうね。それが施設の評価にもつながりますから。

前川 そのとおりです。こんなお話をするのも、常々私は、駐車場に携わるすべての業種を「憧れの職業」にしたいと考えているからなんです。私がJPB理事長として働く2年の間に、駐車場管理に関する人材育成システムの足がかりを築けていけたら、と思っています。

山本 構想を聞いた会員の皆さんからも賛同の声が寄せられているようですね。

前川 ありがとうございます。この話をした際、日々駐車場の業務にあたっている会員の皆さんも「我々のしている仕事はまちのにぎわい創出や、快適な社会づくりに貢献しているのだ」ということを再認識されたのではないかと、といった感触を得ることができました。

マルシェ、プロレスも！ 駐車場がにぎわいを創出

山本 前川さんは理事長就任に際し、併せて「時間貸し駐車場は『安心・安全』に加え、「便利で快適なまちづくりへの貢献」が求められる』とも述べられました。現在、国は、都市の中心部において歩行者を優先した「ウォークブル」なまちづくりを推進し、駐車場をフリッジパーキングとしてまちの周辺部に集約することを検討しています。これについてはどんな見解をお持ちでしょうか。

前川 まちなかで人々が歩きやすい、交流しやすい環境を目指すウォークブル政策はもちろん尊重すべきですが、それを受けて時間貸し駐車場の展開に規制が入ることも予想されます。これまでは基本的に、会員企業が独自に規制に対処して時間貸し駐車場を展開してきたわけですが、今後はJPBができるだけ先頭に立って国との連携を深め、ベストなバランスを見出していきたいと考えています。



山本 ウォークابلに関連した話なのですが、まちなかの時間貸し駐車場や路上パーキングのスペースを、人々の滞留場所やイベント会場、休憩場所などに一時利用する「Park (ing) Day」(一般社団法人ソトノバ)の取り組みはどう思われますか。

前川 とても良いと思います。実は私のノースパーク株式会社も、地元の会社と共創で同様の取り組みを行っているんですよ。

山本 どのような内容ですか。

前川 札幌市豊平区内の平岸という住宅街に「平岸ハイヤー」という、地域密着

型のタクシー会社があるんです。その会社は本業に加えて、地域のコミュニティ形成やにぎわい創出に非常に熱心に取り組まれていて、自社の駐車場を定期的に開放し、物販やキッチンカーでの飲食を楽しめるマルシェを開催しています。年に1回はプロレスも行っているんですよ。

山本 プロレスも! それは面白い。今度ぜひ取材させていただきたいですね。

前川 ちなみにその平岸ハイヤーさんは、駐車場での取り組みからは離れますが、かつての倉庫を活用したダイニングバーや、お笑いやライブを観られるエンタメホールもつくっていて、地域からの認知度は非常に高いんです。地元のテレビ局などメディアにもたびたび取り上げられています。

山本 本誌としては、にぎわい創出の試みの中心に「駐車場」があるのが極めて興味深いところです。先にも触れたとおり、まちづくりの方向性として「都市の中心部には駐車場を配置しない」という考え方がある中で、その駐車場自体がまちににぎわいをもたらす平岸ハイヤーさんと御社の取り組みは、非常に注目に値するものです。

前川 ありがとうございます。

山本 一方で、都市に駐車場、あるいは空地のような低未利用地がランダムに出

現する現象を、まちの連続性やにぎわいを阻害する「都市のスポンジ化現象」と称し、その対策として低未利用地をそこかしこにつくらせないため、分散している駐車場を集約させようという考え方もあります。

前川 確かに集約すれば、スポンジ状にはならないのですが……しかし、お客様の視点に立てば、やはり少しでも目的地に近い場所に駐車したいと思いますよね。特に冬季の北海道はその傾向が強い。言うまでもなく雪がかなり積もるため、できるだけ歩く距離を短くしたい意識があるわけです。

山本 我々に比べると、北海道に住んでいる方々は、はるかに雪道の上を滑らずに歩くテクニックは高いと思いますが、それにしてもやはり歩きづらいのは確かなので、歩行距離が短いのに越したことはない。

前川 ええ。それに加えて何しろ極寒ですから(笑)

交通事故死者数の大幅減少に 時間貸し駐車場も大きく寄与

山本 続いてはJPBの大きな課題となっている「不正駐車」(未払出庫)対策に



- 1 ノースパークが共創している、地元タクシー会社「平岸ハイヤー」のイベント「平岸マルシェ」。2021年から5月～10月の間、毎年計12回前後行われている。
- 2 年1回だがプロレスも開催。地元だけでなく遠方からもたくさんの客が訪れる。

についてお聞きします。ご存じのとおり、JPBの独自調査で、現在、時間貸し駐車場は全国に約1万9,400カ所あり、不正駐車によって年間約30億円規模の被害が発生している、との数値が出ています。これを軽減、撲滅していくことがJPBの命題であるわけですが、どのような見解をお持ちでしょうか。

前川 その話をする前に、30数年前に時間貸し駐車場が世に出てきた時代まで遡ってもよろしいでしょうか。当時は「第二次交通戦争」と称された時代で、年間の交通事故死者数が1万人を超えていました。その要因のひとつが違法の路上駐車車の存在であり、取り締まりが追いついていないため、例えば路上駐車車両の間から子どもが飛び出して、はねられてしまうといった痛ましい事故がみられました。そうした事故の抑制に貢献したのが、時間貸し駐車場だったわけです。路上駐車ではなく、合法的に安全に車を駐車してもらうことで、道路から違法駐車がつくる死角を減らす効果を発揮しました。私が33年前にこの仕事を始めた時は、時間貸し駐車場が増えることで車に関わる事故死者数を少しでも減らしたい、との志がありましたし、それは今でも変わっていません。同業他社の駐車場運営会社もきつと同様でしょう。だからこそ競合相手であるにも関わらず、JPBに入会し、会員同士が互いに協力関係を結べていると思うんですね。

山本 そのとおりですね。

前川 そして第二次交通戦争から30年以上が経ち、昨年度には年間交通事故死者数が約2,600人までになりました。ゼロになるのがもちろん理想的なのですが、ともあれこの数字の実現には、全国の時間貸し駐車場の数が約1万9,400カ所にまで到達したことも大きく貢献していると思っています。では、次なる時間貸し駐車場展開の目的は何か。それは「次世代のまちづくりへの貢献」ではないかと考えています。そこで問題となるのが「不正駐車」です。多くの時間貸し駐車場は

無人運営ですし、未払いで出庫してしまえ!という人は、残念ながら確実に存在します。あるいはちょっと停めるだけだから…といった路上の違法駐車同様の感覚なのかもしれません。しかし、これは「威力業務妨害罪」という犯罪であり、決して見過ごすことができません。

山本 対策としては、防犯カメラによるドライバーの特定などが有効でしょうか。

前川 具体体にはそうした技術を活用した対策が軸になるでしょう。ただ、本質的に大切なのは、不正駐車はれっきとした犯罪であり、社会的に許されない所業なのだ、という事実をJPBとして訴求していくことだと思っています。そして、

その先にあるのは「高いモラルが保たれた安全・安心な社会」だと考えています。

山本 未払出庫は法を犯す行為であり、自分が暮らす地域でそのような犯罪行為が起きていると知ったら、平穩に暮らしている実感は持てなくなります。JPBが安全・安心なまちづくりに貢献できれば良いですよ。

警察と連携して不正駐車対策 犯罪を許さない空気をつくる

前川 そういえばかつて、1990年代のニューヨークで市長を務めたルドルフ・ジュリアーニ氏が、就任後、地下鉄の落書きを一掃したことが発端となってニューヨーク市の犯罪が減り、治安が回復したという話がありましたね。落書きと聞けば軽微な印象ですが、ジュリアーニ氏は「ニューヨークではどんなに小さな犯罪であれ、容赦なく罰せられる」というシグナルを発信したわけです。それが安全なまちづくりにつながったんですね。

山本 いわゆる「割れ窓理論」ですね。わずか1枚でも割られたままの窓ガラスを放置すると、それが誰も関心を払っていないというメッセージになって他の窓ガラスが次々に割られ、ひいては重大な犯罪を誘発するという。



前川 そうです。我々も、不正駐車、未払出庫を見過ごしていたら、やがてそれが広まってしまい、被害額がさらに膨れ上がり、あるいはまた別の犯罪へとつながっていくかもしれません。できるだけ傷が浅いうちに抑え込む必要があります。

山本 おっしゃるとおりですね。不正駐車車の発生事案はエリアによって多い、少ないといった傾向もみられるようですが、札幌エリアはどうですか。

前川 冬季の積雪があるため、北海道の時間貸し駐車場はほとんどがフラップレスです。雪ですぐにフラップが故障してしまいますからね。不正駐車はやろうと思えばやりやすい環境ですが、防犯カメラの設置などが効果を発揮して不正発生率は低く、0.2~0.3%にとどまっています。

山本 それは良いですね。さすがに理事長のお膝元だけのことはある。

前川 そしていよいよ、防犯カメラだけでなく、より踏み込んだ不正駐車抑止策を始めます。具体的には各エリアの警察との連携です。始めに福岡県警と連携し、博多エリアの不正駐車撲滅を宣言したポスターを制作、各時間貸し駐車場に掲示していきます。この「博多モデル」が一定の効果を上げたら、これを成功事例として、他の地域の警察との連携も展開していきたいと考えています。

山本 警察との連携は大きな一歩です



JPBが推進する「不正未払い駐車撲滅キャンペーン」用に作成したポスター(案)。福岡県警と連携、博多エリアで対策に取り組むのを皮切りに、全国各地の警察と共に広範囲での根絶を目指す。

は確かです。我々も貢献していくべきだと思いますし、EV充電機能のほかにも、シェアサイクルや電動キックボードなど他のモビリティのポートを設置するなど、多用途化もカギになりそうです。私は、札幌のシェアサイクル「ポロクル」が掲げる「ラストワンマイル」のフレーズに共感していきまして、今後、自社の時間貸し駐車場にもポロクルのポートを導入していければと思っています。

山本 海外に比べて進展が遅い自動運転、特に自動パーキングの普及に、時間貸し駐車場が貢献できる可能性については何かお考えはありますか。

前川 JPBとして具体策を用意しているわけではありませんが、個人的には非常に便利なサービスになりそうでワクワクしますよね。入庫前に自分が車を降りたら、後はすべて車にお任せなんです。パーキング業界として何らかの寄与できることがないかを探りつつ、推移を見守りたいと思います。

他都府県にも「〇〇.com」構築「停めると探すを便利にする」

山本 最後に、ノースパーク株式会社代表取締役社長としてのお話を聞かせてください。札幌圏に特化した御社オリジナ

ね。効果が期待されます。

前川 これは私見に近いのですが、不正駐車をする人というのは、常習に近いとか、一カ所ではなく多数の時間貸し駐車場で同じ罪を犯していると思うんですね。ですからJPB会員企業内で、常習犯のナンバー情報を共有すべきと考えています。どこかの時間貸し駐車場にその車両が入庫したらすぐアラートを発して対策を取るわけです。ただし理想を言えば警察に突き出して「排除」するのではなく、「正規の料金を払ってもらえればよしとする」という方向に持っていきたい。

山本 その人も元々は出来心だったかもしれない、と。素晴らしい考え方です。

前川 そして何より、駐車場のニーズがあるからこそ入庫するわけです。啓発を通

じて、正しく利用していただければ、と思っています。

新たなモビリティポート導入 駐車場の「ハブ化」を推進

山本 最近の時間貸し駐車場の話題のひとつに、電気自動車(EV)充電器の設置があります。これについてはどうお考えですか。

前川 EV充電器とEVは、よく「鶏が先か、卵が先か」に例えられますよね。いずれにせよ、今後の地球環境を考えればEVの普及は進めなければなりません。そのためには、移動した先での充電場所として、時間貸し駐車場が有望であるの



- 1 ノースパークが平岸ハイヤーと共同経営している時間貸し駐車場。北海道でよく見られるフラップレス型。
- 2 ノースパークが運営する駐車場情報サイト「札幌月極.com」のトップ画面

ルの月極駐車場ポータルサイト「札幌月極.com」の現状と展望はいかがですか。

前川 おかげ様で物件数は延びており、3,000カ所くらいに到達しています。ざっと1カ所平均10車室だとして約3万台分は登録されている計算ですね。「月極を探しているのだが」という問い合わせはひっきりなしにいただいています。

山本 成功の要因は何だとお考えですか。

前川 ただサイトに情報を載せているだけではなく、リアルタイムにオペレーターが回答するきめ細かなサービスだと思っています。例えば「今は適切な空き駐車場はありませんが、1ヵ月後にはこの近くのここここが空きます」といった、お客様の事情に即した情報を提供しています。また、最近は期間限定の工事車両専用や、マンションの駐車場工事中の一時駐車などにも対応しています。サイトの即時性と人の気遣いが融合したサービスであると自負しています。

山本 つまり「コンシェルジュ」ですね。

前川 そう！「駐車場コンシェルジュ」です、まさに。この言葉、私は大好きです。ただの「駐車場のおじさん」とは呼ばせません(笑)。それともうひとつ、当社が2021年にノースパーク株式会社に社名変更したのは、全国規模で「札幌月極.com」を展開したいという目標があったからなんです。

山本 といいますと……？

前川 日本を「ノースパーク」「イーストパーク」「サウスパーク」「ウエストパーク」と4分割し、それにひもつけて各都道府県に「〇〇.com」を置くのです。「東



「駐車場管理士」「不正駐車対策」「〇〇.com構想」など、いずれのトピックについても常に高い熱量で語る前川氏に引き込まれた。

京月極.com」「広島月極.com」といった具合です。当社のスローガン「停めると探すを便利にする」の全国展開を爾々と進める計画です。

山本 それは壮大なプランですね。進展があったらぜひ取材させてください。

前川 分かりました。それともうひとつ、いま北海道は「ラピダス」で沸いています。次世代半導体の国産化を目指すRapidus株式会社は経済産業省からも既に1兆円近い補助金を受けていて、現在、千歳市での新工場建設が急ピッチで進められています。

山本 Rapidus、確かに大きな注目を集めていますね。TSMCの熊本県進出による20兆円超えともいわれる経済効果しかりで、北海道の経済界はかなり盛り上がりつつあるのだろうと推察していました。ノースパークさんとしてもこれは大きなビジネスチャンスであると？

前川 もちろんです。過日、Rapidusの小池 淳義社長の講演を聞く機会がありました。Rapidusでは次世代級の回路線幅となる「2ナノメートル」の半導体を、2027年に量産する計画を進めているとのことでした。また、苫小牧から、工場が建つ千歳、さらにその北の札幌、石狩を結ぶ一帯を「北海道バレー」と命名し、「シリコンバレーに負けない開発拠点化を目指したい」とも話されていました。その北海道バレーの一帯に、爆発的な駐車場需要が発生するのは確実です。当社としては、当然、注力していくつもりです。

山本 分かりました。本日はJPB理事長としてのご意見から、ノースパーク代表取締役としての壮大なプロジェクトまで、幅広いトピックをお聞きすることができ、充実した対談となりました。誠にありがとうございました。 **PP**

聞き手：本誌編集長 山本 稔 (やまもと みのる)

1959年神奈川県横浜市生まれ。1981年東京工芸大学写真工学部卒業。制作会社にて宣伝広告・商業カタログ等の写真制作に携わりながら1994年に独立し、デザイン・印刷・出版を主な事業とする(有)サン・ネットを設立。2010年より本誌編集長

過去の対談記事をWEBで公開しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

